

平成19年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



なかなおりマーク

滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

平成21年2月

滝川市教育委員会

はじめに

昨年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされました。

このことを受け、滝川市教育委員会としては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会委の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について、毎年度、点検・評価を行い、報告書を作成・公表することとしました。

この点検・評価の実施を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進していきたいと考えていますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成21年2月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況	1
(2)条例・規則等の制定、計画等の策定状況について	4

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

(1)点検・評価の流れについて	6
(2)点検・評価報告書について	7
幼稚園教育の推進	8
義務教育の充実	9
地域に開かれた信頼される学校の構築/確かな学力の向上/生徒指導の充実 心の教育推進プラン/義務教育施設の充実	
高等学校教育の充実	14
進路指導の充実/スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究事業	
生涯学習の充実	16
家庭教育支援事業の推進/青少年健全育成に資する体験活動等の推進 関係団体と連携した社会教育・生涯学習活動の推進	
図書館の充実	19
利用者サービスの向上/読書普及/学校との連携による子どもの読書活動支援/巡回文庫	
芸術文化の振興	23
地域文化活動を担う人材育成事業の展開/個性ある豊かな地域文化の実現と環境づくり 住みたくなるまちづくりと子どもの芸術文化活動への環境づくり/まちなか賑わいと文化施設の活性化 歴史的文化遺産の保存と活用	
博物館活動の充実	28
博物館活動の充実/「りんごの木への想い。一木万寿三展」 博物館アウトリーチ事業「ちいさな・はくぶつかん」 郷土館開館 30 周年記念「たきかわ・昭和のこどもたち展」	
スポーツの振興	32
生涯スポーツ・体力づくりの推進/競技スポーツ・観るスポーツの推進 海洋スポーツ・冬季スポーツの推進/関係団体との提携と各種施設の有効活用	

1 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほかに、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことにより様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

教育委員会議

16回開催しました。

開催日	付議案件等
19. 4. 26	〔議案〕 ・滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う関係規則の整理に関する規則 ・滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う関係規程の整理に関する規程 ・滝川市就学指導委員会議委員の選出について ・滝川市社会教育審議会委員の委嘱について 〔その他〕 ・補正予算の提案について ・入学式における国旗・国歌の実施状況について ・全国学力・学習状況調査の実施について
19. 5. 7	〔議案〕 ・委員長職務代理者の指定について
19. 5. 30	傍聴者1名 〔議案〕 ・滝川市少年育成センター指導員の委嘱について 〔その他〕 ・平成19年度教育行政執行方針について ・スクールバンドフェスティバルの開催について ・滝川市立図書館について ・第51回北海道学校給食研究大会について
19. 6. 27	傍聴者3名 〔議案〕 ・教育長の選任について ・委員長職務代理者の指定について ・課長職以上の任免について 〔その他〕 ・麻しんの発生状況について ・公立高等学校配置計画案について ・平成19年第2回滝川市議会定例会代表質問について
19. 7. 23	傍聴人2名 〔議案〕 ・滝川市社会教育審議会委員の委嘱について 〔その他〕 ・防災演習について ・温水プール要望書について ・滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議「平成19年度第1回役員会」の開催について

	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道学校給食研究大会の滝川市開催について ・おおぞら幼稚園閉園にかかる保護者説明会の開催について ・いじめ事件の経過について ・北広島市いじめ事件の道教委通知について ・「心の教育推進プラン」の進捗状況について(青少年問題協議会)
19. 8. 31	<p>傍聴人2名 (議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市青年体育センター条例等の一部を改正する条例 ・滝川市総合福祉センター条例等の一部を改正する条例 ・滝川市立学校設置管理条例の一部を改正する条例 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度適用方針の変更について ・北海道滝川高等学校普通科間口削減に反対する要望書について ・おおぞら幼稚園の閉園に係る保護者説明会について ・小中学校のセキュリティー対策について ・教育施設の窓ガラス被害について ・江陵中 60 周年記念講演について ・セミナー開催について「北の大地にひろがる美しく豊かなことば」 ・空知教育講演会について ・小・中学校英語指導助手の着任について ・児童生徒の心に響く道徳教育推進事業について ・西高等学校格技場における吹付けアスベストについて ・西高等学校英語指導助手の着任について ・図書館の移転について ・美術自然史館一木万寿三展について ・補正予算の提案について
19. 9. 18	<p>傍聴人1名 (議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の辞職について <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立高等学校配置計画(平成 20 年度～22 年度)及び平成 20 年度公立特別支援学校配置計画について ・適正配置計画策定スケジュールについて ・図書館のまちなか移転について
19. 10. 11	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年第3回滝川市議会定例会一般質問について ・図書館のまちなか移転について
19. 10. 25	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市立小・中学校適正配置基本方針(案)について <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価制度の試行実施について ・耐震診断結果について ・理科支援員募集について
19. 11. 27	<p>傍聴人1名 (議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市立高等学校教員等の定数、給与、勤務時間その他の勤務条件及び定年による退職等に関する条例の一部を改正する条例 ・滝川市立学校備品区分取扱規程の一部を改正する規程 ・公の施設の指定管理者の指定について(滝川市音楽公民館)

	<ul style="list-style-type: none"> ・公の施設の指定管理者の指定について(滝川市青年体育センターほか9施設) ・公の施設の指定管理者の指定について(滝川市勤労青少年ホーム) ・公の施設の指定管理者の指定について(滝川市総合福祉センターほか3施設) ・滝川市立小・中学校適正配置基本方針について ・教職員の懲戒処分について [その他] ・補正予算及び予備費充用等について ・滝川市「事業仕分け」の結果について ・耐震診断結果について
19.12.5	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市議会に対する意見の送付について
19.12.21	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長の選挙について ・委員長職務代理者の指定について ・滝川市立小学校又は中学校の児童又は生徒の出席停止の命令の手續に関する規則及び滝川市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則 [その他] ・インフルエンザの状況について ・平成19年第4回滝川市議会定例会一般質問について
20.1.21	<p>傍聴人1名</p> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市立学校管理規則等の一部を改正する規則 ・平成19年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
20.2.19	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校職員の処分内申について
20.2.21	<p>傍聴人1名</p> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度教育予算について ・滝川市立幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例 ・滝川市立高等学校教員等の定数、給与、勤務時間その他の勤務条件及び定年による退職等に関する条例の一部を改正する条例 ・滝川市立高等学校の授業料等徴収条例の一部を改正する条例 ・滝川市美術自然史館条例及び滝川市こども科学館条例の一部を改正する条例 ・滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例 [その他] ・教育行政執行方針について ・補正予算について ・損害賠償請求調停について ・西高生徒の進路状況について
20.3.24	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川市教育委員会事務委任規則 ・滝川市教育委員会公印規則の一部を改正する規則 ・滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則 ・滝川市美術自然史館条例施行規則及び滝川市こども科学館条例施行規則の一部を改正する規則 ・滝川市青年体育センター条例施行規則等の一部を改正する規則 ・滝川市総合福祉センター条例施行規則等の一部を改正する規則 ・滝川市個人情報等の適正管理に関する規程の一部を改正する規程 ・滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程

	<ul style="list-style-type: none"> ・校長、教頭の任免に係る内申について ・学校評議員の委嘱について ・教頭及び課長職以上の任免について {その他} ・平成20年第1回滝川市議会定例会代表質問について ・職員人事異動内示について ・滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議について ・平成19年度卒業式における国旗・国歌の実施状況について ・「いじめに関するアンケート」調査結果の速報について
--	---

教育委員協議会

10回開催しました。

開催日	調査及び研究内容
19. 4. 26	・特別支援教育について
19. 5. 7	・耐震診断の結果について ・いじめ事件の経過について
19. 5. 30	・心の教育学校サポート事業の認定について ・いじめ事件の経過について ・おおぞら幼稚園の閉園について ・公立高校配置計画について
19. 6. 27	・平成19年度教育行政執行方針について
19. 7. 23	・滝川市小・中学校のあり方に関する検討懇談会について ・いじめ事件の経過について
19. 10. 11	・滝川市立小・中学校適正配置基本方針(案)について
19. 11. 27	・心の教育学校サポート事業の認定審査について
19. 12. 21	・平成20年度教育委員会予算要望について ・いじめ事件の経過について ・小中学校適正配置について ・高校適正配置について
20. 1. 21	・アスベストについての報告 ・道内類似自治体の教育予算比較・平成19年度単位費用積算と教育部予算の比較 ・平成19年度心の教育の推進に係る学校実施事業計画
20. 2. 21	・平成19年度心の教育学校サポート事業の認定審査一覧 ・不登校児童生徒について

(2) 条例・規則等の制定、計画等の策定状況について

平成19年度に制定された教育関係条例等の数は9件、教育委員会規則の数は2件です。(施行年月日がH19.4.2～H20.4.1のもの)

また、平成19年11月には小中学校の適正配置計画の指針となる「滝川市立小・中学校適正配置基本方針」を策定しています。

教育関係条例等

題名	公布年月日	施行年月日
滝川市青年体育センター条例等の一部を改正する条例	H19. 9. 18	H20. 4. 1
滝川市総合福祉センター条例等の一部を改正する条例	H19. 9. 18	H20. 4. 1
滝川市立学校設置管理条例の一部を改正する条例	H19. 9. 18	H20. 4. 1

滝川市立高等学校教員等の定数、給与、勤務時間その他の勤務条件及び定年による退職等に関する条例の一部を改正する条例	H19.12.14	H20.4.1
滝川市立幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例	H20.3.25	H20.4.1
滝川市立高等学校教員等の定数、給与、勤務時間その他の勤務条件及び定年による退職等に関する条例の一部を改正する条例	H20.3.25	H20.4.1
滝川市立高等学校の授業料等徴収条例の一部を改正する条例	H20.3.25	H20.4.1
滝川市美術自然史館条例及び滝川市こども科学館条例の一部を改正する条例	H20.3.25	H20.4.1
滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例	H20.3.25	H20.4.1

教育委員会規則

題 名	公布年月日	施行年月日
滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う関係規則の整理に関する規則	H19.4.27	H19.4.27
滝川市立小学校又は中学校の児童又は生徒の出席停止の命令の 手続に関する規則及び滝川市立小学校及び中学校通学区域規則 の一部を改正する規則	H19.12.21	H19.12.26

主な計画等の策定状況

年 月 日	計 画 等 名
H19.11.27	滝川市立小・中学校適正配置基本方針

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価の流れについて

点検・評価のための3つの視点

点検・評価に当たっては、次の3つの視点を持って進めました。

ア 市民等の視点

市民やサービスの受け手、関係する企業や団体などの公的サービスに対するニーズの多様化や変化を的確に把握し、迅速に対応できているか、お客様の視点に立って仕事のあり方を見直します。

イ コスト削減の視点

事業費や従事する職員の人件費などの経費を含めて全体経費を把握し、効率的・効果的な執行が図られているかどうかを点検します。

ウ 職場活性化の視点

職員が自らの仕事のあり方について評価することで、仕事を客観的に見つめ直し、コスト意識やサービス精神の改善につなげるとともに、一人ひとりが組織目標を常に考え、柔軟で効率性を考えた取組を進めます。

点検・評価シートを用いた評価の実施

事業・事務の成果を分析・検証するため、所管課が作成した点検・評価シートに基づき、学識経験者等の外部評価委員と各所管課がヒアリングを実施し、内部評価に対して客観的な意見を述べてもらいました。

具体的な評価の内容について

点検・評価シートを用いて事業の成果を測定するとともに課題を把握し、より良い事業の展開に向けた改善へとつなげていくため、以下の4つの評価項目について、8つの着眼点により評価を行いました。

・評価項目等の一覧

評価項目	項目の説明	着眼点(各4点満点)
1 適 応 性	現在の市民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。また、必要な場合でも、市が行う必要があるのか、他の実施主体は考えられないのか、役割分担は適切かどうかを評価します。	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。
		事業を市が行う必要があるか。
2 有 効 性	目的を達成するために最も効果的な手法、内容、実施水準となっているか、他の方法がないかを評価します。また、この事業は施策や運営方針、その他本市で策定した各種計画・プラン・指針等の目的の実現のどの程度寄与しているかを評価します。	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
3 目 標 達 成 度	これまでの経過や他都市の水準などと比較して、目標の設定水準が適切かどうか、事業の目的を達成するために最適な目標かどうかを評価します。併せて、その目標の達成状況を評価します。	目標の水準は適切か。
		計画通りに目標を達成できたか。
4 効 率 性	事業のコストがかかり過ぎていないか、最小の軽費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。また、事務作業に無駄がないか、更なる効率化が図られないかを評価します。	コストは縮減しているか。
		事務は効率的に行われているか。

・着眼点の評価

着眼点評価	着眼点に即した取組
4	十分できている
3	できている
2	あまりできていない
1	できていない

点検・評価報告書の作成

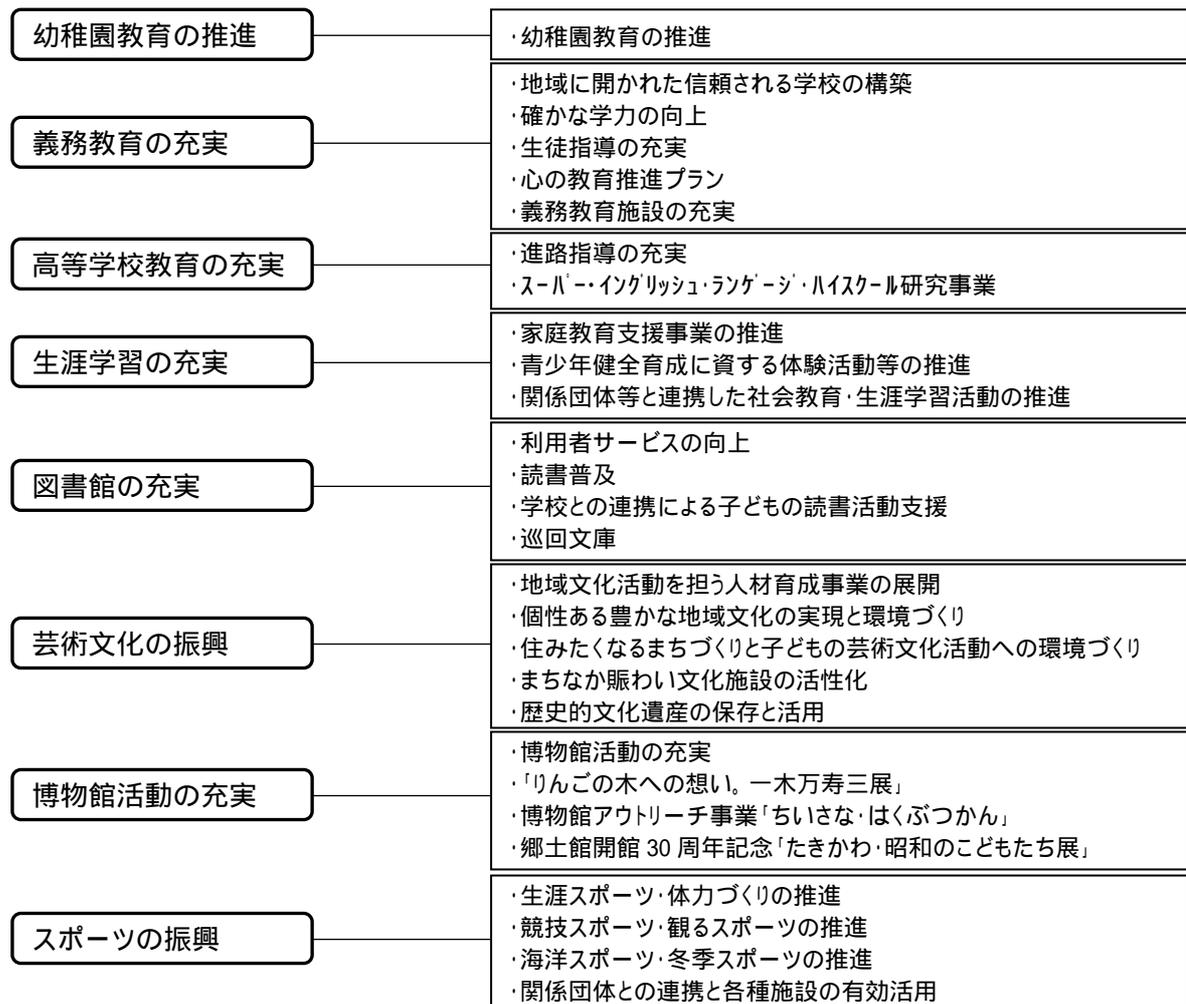
評価項目の得点を合計し、100点満点に換算して、下記の総合評価のランクを参考に、複数の評価項目に関連するコメント、課題・問題点などについて総合的な評価を行い点検・評価シートを作成しました。

・総合評価のランク

ランク	評価点	内容
A	86 以上	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	71 ~ 85	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	56 ~ 70	一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
D	41 ~ 55	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である。
E	40 以下	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

(2) 点検・評価報告書について

平成 19 年度は、大きく 8 項目、28 事業について点検・評価報告書を作成しました。点検・評価報告書を作成するにあたっては、内部評価及び外部評価を含めた点検・評価シートを参考に作成いたしました。



幼稚園教育の推進

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-1-1	事業名	幼稚園教育の推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	----------

判 定					
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目				
	C (69 点)	適 応 性	3	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	
2			事業を市が行う必要性があるか。		
有 効 性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。		
		2	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。		
		3	計画通りに目標を達成できたか。		
	経 済 性 効 率 性	3	コストは縮減しているか。		
		3	事務は効率的に行われているか。		

事業の目的	<p>幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、子どもを取り巻く環境の変化や社会状況を踏まえた幼稚園教育を推進する。</p>
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内幼稚園で組織する、滝川市幼稚園連絡協議会において多様化する幼稚園教育の情報交換を行う。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金を交付し、保育料等の保護者負担の軽減を図るとともに、第1子の補助額を北海道平均に近づけるため、平成21年度までに段階的に削減する。 ・公立幼稚園のあり方について、私立幼稚園が定員割れしていることから存廃について検討を進める。
事業の実績及び成果	<p>自然体験活動などを積極的に取り入れた幼稚園教育を行うとともに、延長保育を継続して実施した。私立幼稚園就園奨励費補助金については、制度改正された第2子以降の優遇措置を実施し保護者の負担軽減を図った。公立幼稚園の存廃については、おおぞら幼稚園の平成21年度からの4歳児を募集停止する条例案が議会で可決され、閉園が決定した。</p>
評価内容	<p>幼稚園教育は、民間に移行するということを決定したが、幼稚園教育を民間に移行した場合の行政の果たすべき役割、今後に取り組むべき施策について、民間との協議が十分に行われなかったことから、早急に具体的な検討に入る必要がある。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	<p>幼稚園教育については、私立幼稚園と協働して、今後に取り組むべき施策を早急に検討することが必要である。</p>

義務教育の充実

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-2-1	事業名	地域に開かれた信頼される学校の構築
-------------	----------	-------------	-------	------------	-------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	B (81点)	適 応 性	3
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
3		事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	地域に信頼される開かれた風通しのよい学校づくりを行うために、学校運営の状況について教職員による自己評価や保護者等による学校関係者評価を適切に実施し、改善に生かすとともに、家庭や地域、関係機関と連携した取組を推進する。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価や児童生徒の評価などを取り入れた適切な学校評価の構築 ・地域全体で子どもたちを見守り、育てる機運を高める地域参観日の実施 ・学校改善のための学校評議員制度の推進と活用
事業の実績及び成果	全小中学校において、市内一斉地域参観日「コスモスデー」を開催することができ、地域全体で子どもを見守り、育てるといった機運が高まった。
評価内容	<p>学校評価の実施や「コスモスデー」の開催により、市民の皆さんに子どもたちの教育活動の様子や学校の様子を知っていただくことができ、地域に開かれた信頼される学校としての成果はあがっており、今後も積極的に取り組みを進めることが必要である。</p> <p>「コスモスデー」の開催方法について、一日で全校を見て回るのは困難であり同一日にしなくても良いのではとの意見もあるが、全市一斉で開催することにより、その機運も高まるので、今後も全市一斉開催を継続したいと考える。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	学校評議員制度による評議員の役割は、校長のサポーターとして、学校運営に必要な事項についての助言等を行うことや、市民の声を校長に伝えたりすることで、学校への積極的な関わりが今後においても重要とされる。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-2-2	事業名	確かな学力の向上
-------------	----------	-------------	-------	------------	----------

判 定		
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目	
	A (94点)	適 応 性
4 事業を市が行う必要性があるか。		
有 効 性		4 事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4 目標の水準は適切か。	
	3 計画通りに目標を達成できたか。	
	3 コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	4 事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	児童生徒に基礎・基本を確実に定着させ、確かな学力を育成するために、個に応じた指導を図る子どもの実態把握と指導体制づくりを推進する。
事業の内容	・少人数指導、チームティーチングなどの指導方法の工夫・改善に積極的に取り組む。 ・「標準学力検査」を実施し、児童生徒の学力の実態の的確な把握と学習指導の改善を図る。
事業の実績及び成果	全学校において、少人数指導、チームティーチングなどの指導方法の工夫・改善の取り組みを行うとともに、「標準学力検査」、「全国学力・学習状況調査」を実施した。また、小規模校における効果的な指導方法について研究を行うため、江部乙中学校と東栄小学校に教育支援員をそれぞれ配置した。
評価内容	一人一人の学習状況を的確に把握するために、「標準学力検査」、「全国学力・学習状況調査」を全小中学校において実施し、その結果を学力向上対策に生かすための学力向上プランを作成するなど、学力向上のための施策を適切に実施した。 学力向上は学校教育における永遠の課題であり、そのためには実施する施策の妥当性、推進状況を検証して工夫・改善を図り、常に向上を追求しなければならない。
事業の課題等 取組みの方向性	各学校が少人数指導やチームティーチングなどの指導方法の工夫・改善に取り組み、教育課程の編成・実施・評価・改善について、確実に実行できるよう指導助言を行う。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-2-3	事業名	生徒指導の充実
-------------	----------	-------------	-------	------------	---------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
		3	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	豊かな人間性及び社会性を育成するため、日常の教育活動において、児童生徒の健全育成と生徒指導の充実を図るとともに、不登校児童生徒の学校復帰を支援するための、適応指導教室の充実を図る。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当者会議の開催 ・少年育成センター指導員会議の開催及び街頭指導の実施 ・不登校児童生徒の学校復帰を図るための相談・指導を目的とした適応指導教室の充実
事業の実績及び成果	年7回の生徒指導担当者会議、年4回の少年育成センター指導員会議を開催することにより、生徒指導上の課題を共有することができ、共通歩調で指導を進めることができた。また、適応指導教室に通級した児童生徒を、学校に復帰させることができた。
評価内容	<p>家庭の教育力向上へ向けた意識の啓発を図るとともに、地域の少年健全育成のため、関係機関と連携した取り組みや生徒指導上の課題を共有することができ、共通歩調で指導を進めることができた。不登校児童生徒については、適応指導教室に通級した児童生徒の全員が学校に復帰しており成果があった。</p> <p>しかし、不登校児童生徒を適応指導教室に通級させること、学校復帰が図られるようにするためには、指導員の児童生徒・保護者への関わり方や関係機関との連携が重要となる。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	児童生徒の不登校については、家庭環境の崩壊、放任や過干渉など様々な要因があり、学校現場での対応の領域を越えたものも決して少なくはなく、関係機関とのより一層の連携が必要である。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-2-4	事業名	心の教育推進プラン
-------------	----------	-------------	-------	------------	-----------

判 定					
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目				
	A (91点)	適 応 性	4	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	
4			事業を市が行う必要性があるか。		
有 効 性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。		
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。			
	3	計画通りに目標を達成できたか。			
	3	コストは縮減しているか。			
経 済 性 効 率 性	4	事務は効率的に行われているか。			

事業の目的	人にやさしいまちづくりを推進することにより、学校・家庭・地域が連携しながら「自立して生きる力を身につける」「お互いを認め合う心が広がる」「自分に厳しく相手にやさしい心をもつ」そうした人々が暮らす地域社会を目指す。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実 ・「道徳の時間」の充実 ・「心の教育」サポート事業 ・他の機関との連携
事業の実績及び成果	子どもたちに「向かい合う心」「豊かな心」を育む「心の教育推進プラン」の中期的プログラムの中核として、「いじめ対策連携プロジェクト・緊急実践事業」「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」を取り組んだ。
評価内容	<p>「道徳の時間」において、心に響く資料を活用した指導を行うとともに、体験を生かした指導の工夫や保護者や地域の方などの支援を得た指導を展開することにより、児童生徒の道徳的実践力を高める指導の充実に努めることができた。</p> <p>今後も教育委員会が主体となり事業を展開し、学校・家庭・地域と連携を図り、積極的に取り組みを進める。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	教育相談に係わる意識・技術の向上と校内体制のさらなる充実、児童生徒の実態を踏まえた道徳時間の充実に図ることが必要である。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-2-5	事業名	義務教育施設の充実
-------------	----------	-------------	-------	------------	-----------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	適 応 性	4	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。
4		事業を市が行う必要性があるか。	
有 効 性	3	事業の目的に照らして効果的な手法か。	
	3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	
B (78 点)	目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。
		2	計画通りに目標を達成できたか。
経 済 性 効 率 性	3	コストは縮減しているか。	
	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	学校施設は、児童生徒が1日の大半を生活する場所であり、学校生活を安心して過ごせるように学校施設などの学校環境の整備を推進する。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化にともなう大規模改修等を年次的、計画的に進める。 ・全小中学校の耐震診断を実施するとともに、計画的に施設の耐震化を図る。 ・小中学校のコンピュータ機器を全面更新、小学校においても1人1台の配置を実現する。 ・小中学校の防犯体制を強化するために機械警備を導入する。
事業の実績及び成果	全小中学校の耐震診断を終了し、学校施設の耐震化の方向性について検討を開始することができた。情報処理教育を充実するために、コンピュータ機器の全面更新を行った。また、小中学校の防犯体制を強化するために機械警備の導入を行った。
評価内容	全小中学校の耐震診断、コンピュータ機器の全面更新、機械警備の導入は計画どおり実施することができた。しかし、施設整備面では緊急的な修繕が発生したために、当初に計画した修繕を実施できなかったことや、耐震化を含めた施設整備について、全体の方向性を定めることができておらず、目標が達成できるよう財政的な裏付けも含めた進行管理が必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	施設の老朽化に伴い、緊急的な修繕が増えており計画的な整備を進めるためには十分な予算確保が必要となる。また、耐震診断が終了したことから適正配置計画と整合性のとれた耐震改修を早期に実現することが望まれる。

高等学校教育の充実

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-3-1	事業名	進路指導の充実
-------------	----------	-------------	-------	------------	---------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94 点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
A (94 点)	目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。
		3	計画通りに目標を達成できたか。
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	「文武両道」を継続するため、さらに生徒の学習・進学意欲の向上と進路実現を図るとともに、特色ある学校作りを推進する。一人ひとりの能力・適性関心に対応したきめ細かな指導体制を確立し、学力の向上と大学入試センターに対応した講習の充実を図る。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から進路カルテを作成することにより、3年間を見通した進路指導の充実を図る。 ・サテライト講習など進学希望者のニーズに対応した教材の提供を行う。
事業の実績及び成果	進路カルテについては、導入1年目ということもありよく検証したい。サテライト講習の受講者は、前年より大幅に増えており、国公立大学合格者数も、この2年間で10名を越える合格者を出すことができた。
評価内容	市立高校ならではの特色を持った教育活動を展開し、選ばれる学校として着実に成果を上げている。進路指導面では、生徒の希望する進路を実現させるために、新たな取り組みとして進路カルテを作成した。また、サテライト講習は、大学進学を目指す受講者が増えていることから、進路指導を充実させる手法の一つとして確実に成果を上げており、継続できるよう財政面での支援が必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	両事業とも、進路実現を重視した事業であり、今後も教員がそれぞれの役割を果たし、連携を図りながらきめ細かな指導体制の充実・確立することが重要である。国公立大学合格者数については、3年計画で20名程度の合格者を目指す。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	1-3-2	事業名	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究事業
-------------	----------	-------------	-------	------------	-------------------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (91 点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。
		3	計画通りに目標を達成できたか。
	経 済 性 効 率 性	3	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	<p>基礎・基本の定着 (input-intake-output) を図るとともに、文法・訳読に偏った指導方法の改善を図る。</p> <p>生徒の特性・学力に応じた指導法の研究開発を行い、英語運用能力の向上を図る。</p>
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本定着のための少人数指導と TT による授業の研究 ・オールイングリッシュによる授業の実施 ・大学教授等による出前講座の実施 ・英語能力分析のためのテストの実施
事業の実績及び成果	<p>生徒の英語による発言回数が格段に増えており、オールイングリッシュの授業にも慣れ、8割を超える生徒が、教員の指示や説明を概ね理解できるようになった。また、少人数指導により、理解していない生徒を把握しやすくなり、早めにフォローすることができた。</p>
評価内容	<p>3年計画である初年度を終了し、本校の英語教育は大きく改善され、少人数授業を実現したことから、英語の運用能力を高めることができた。また、オールイングリッシュで授業を展開することで、生徒の英語による発言が格段に増えており、大きな成果を得ることができた。文部科学省の現地調査では、教科書の難度が高すぎ、input が不足したまま output 活動に入っていることや生徒の活動不足、発言機会を増やすことを指摘されたが、次年度に向け直ちに改善が図られている。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	<p>平成21年度から、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究事業 (SELHi) に変わり、「英語教育改善のための調査研究」事業が実施されることから、研究開発校の指定を受ける手続きを進め、指定校となった場合には、SELHiの成果を踏まえ、生徒を中心とした研究開発を進める。</p>

生涯学習の充実

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-1-1	事業名	家庭教育支援事業の推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	-------------

判 定			
総合 ランク	評 価 項 目		
	A (94 点)	適応性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有効性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
A (94 点)	目 標 達成度	4	目標の水準は適切か。
		3	計画通りに目標を達成できたか。
	経済性 効率性	4	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	基本的な生活習慣や生活能力、自制心や自立心、豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断などの基本的倫理観、社会的マナーなどの基礎を子どもたちに育むことを目的とする。
事業の内容	地域全体で家庭教育の推進を図ることを目的に関係機関、団体が連携して、滝川市家庭教育支援連絡協議会を組織し、次の3つのことを重点に取り組んでいる。 1. あいさつ運動の推進(街頭啓発など) 2. 家庭教育機会の提供(講演会の開催、情報紙の発行など) 3. 子育て支援の充実(子育て講座の開催など)
事業の実績及び成果	滝川市家庭教育支援連絡協議会が中心となり、あいさつ運動の街頭啓発、講演会、子育て講座の開催、情報紙の発行など、家庭教育機会の提供と充実を図った。
評価内容	家庭教育は、その性質上、事業の成果は見えにくいですが、教育基本法にもあるように、今後、最も必要なことであり、学社連携しスピードアップと拡充が必要である。 また、家庭教育をどのように家庭に浸透させていくのか、具体策を研究し、他の関係機関との連携も必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	滝川市の家庭教育指針である「子育て10選」をより具体的に進める効果的な手法について、モデル事業を通して研究するとともに、学校との連携を強化しながら、地域の教育力を活用した支援体制づくりに努める。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-1-2	事業名	青少年健全育成に資する体験活動等の推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	---------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94 点)	適 応 性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	4	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	4	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	青少年の成長段階に応じた各種体験活動等に参加する機会を提供し、青少年の豊かな社会性と人間性を育むことを目的とする。
事業の内容	(1) 「滝川遊学会事業」として、市内の社会教育関係団体やボランティアの支援によるスポーツ、レクリエーション、文化体験、自然体験などの各種体験事業の実施。 (2) 滝川市青少年育成会と滝川市地域活動連絡協議会との連携による青少年健全育成事業と資金造成事業の実施。
事業の実績及び成果	「滝川遊学会事業」として、市内の社会教育関係団体やボランティアの支援によるスポーツ、レクリエーション、文化体験、自然体験などの各種体験事業に参加する機会を提供した。
評価内容	各種体験活動を提供し、子どもたちに自信を持たせることは大切であり、そのことは、学校教育の場においても良い効果に結びつく。 また、青少年の体験活動を支援する基金や補助制度の活用を探る必要がある。 今後は、児童センターを利用しない子どもの対応についても検討し、より幅広い対応が必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	今後も青少年育成団体、社会教育関係団体、ボランティアと連携しながら事業を進める必要があり、市の役割も従来までの事業の運営主体から企画・調整・助言へと移行していくことが望ましい。また、事業費の確保についても検討を進める。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-1-3	事業名	関係団体等と連携した社会教育・生涯学習活動の推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	--------------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94 点)	適 応 性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。	
	4	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	生涯を通じて、健やかに充実した生活を送るために、いつでも、どこでも自由に学習機会を選択し、豊かに学び、文化に親しみ、スポーツを楽しむことができるような基盤整備をするとともに、学んだ成果を生かして社会の中で自己実現を図ることができる生涯学習社会の構築を目的とする。
事業の内容	1.福寿大学(各種講座・大学祭、交流事業などの実施) 2.公民館事業(公民館まつり・カラオケ発表会の実施) 3.人材バンク事業(講師登録・派遣紹介) 4.出前講座(講師派遣) 5.グループ・サークル活動情報提供(紹介)
事業の実績及び成果	「福寿大学」、「公民館まつり」などを実施し、学習やその成果を発表する機会を提供した。
評価内容	「福寿大学」は各講座などの内容も充実し、たいへん良いと評価できる事業である。 今後は、学生に、より自主性を持たせるような取り組みが必要であり、具体的な年次計画を立て、主体的な運営に導いていく必要がある。 また、福寿大学祭では、バザーを実施し、自主的に財源の一部を確保していることも良いと評価できる。
事業の課題等 取組みの方向性	積極的な社会参加に繋げるため、個々の自主性をさらに高めるような、支援のあり方の研究に努める。

図書館の充実

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-2-1	事業名	利用者サービスの向上
-------------	----------	-------------	-------	------------	------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	適 応 性	3	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。
4		事業を市が行う必要性があるか。	
有 効 性	4	事業の目的に照らして効果的な手法か。	
	4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	
A (94 点)	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。	
	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	市民に親しまれ、活用される図書館として利用者サービスの向上と生涯学習活動の拠点として市民ボランティアとの協働を図る。
事業の内容	・祝日開館、開館時間延長、インターネットの市民開放、古本もってけ祭等の利用者サービスの向上 ・市民と協働した活動の場としてボランティア活動を推進
事業の実績及び成果	祝日開館、開館時間延長による利用時間の拡大、インターネットの市民開放により、多様化する情報を得やすい環境の整備、古本もってけ祭では、資料・図書の再利用として市民へ提供するなど、利用者へのサービスの向上を図った。図書館ボランティア活動は、初年度から登録者も増え、図書館事業への参加協力を得ている。
評価内容	図書館は、どこでもだれもが利用できる環境にあることが望ましく、現図書館については、施設の面、交通の便等に課題がある中で、利用者へのサービス向上を図ることができた。また、生涯学習活動の場としてのボランティア活動についても、登録者が増えており着実に成果は上がっている。
事業の課題等 取組みの方向性	図書館利用の促進やレファレンス対応に必要な蔵書・資料の充実が必要である。また、祝日・開館時間延長等の利用促進と市民ニーズに合わせたサービスの向上、図書館ボランティア活動の充実が図れる環境整備をさらに高める必要がある。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-2-2	事業名	読書普及
-------------	----------	-------------	-------	------------	------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (91 点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	4	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	利用者ニーズの把握や課題解決に役立てる図書・資料の充実に取り組み、読書への関心や意欲を高め、生涯にわたる読書の習慣化を目指して、読書普及を推進する。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間事業では、読み聞かせボランティアの協力を得た特別行事の実施や読書への関心を高める為の、図書の紹介、特設コーナーの設置、特別展示の開催 ・乳幼児からの絵本との出会いの場として、定期的な絵本のおはなし会、出前によるおはなし会の実施 ・人材育成のために、読み聞かせボランティアを対象とした講習会、上演会等の実施
事業の実績及び成果	読書週間事業では、趣向を凝らした行事や展示を実施し、読書への興味づけや利用の促進を図った。子ども読書週間事業では、絵本等に興味を持ってもらえるように、読み聞かせのボランティアやグループ、國學院短期大学生の協力を得て、特別行事を実施した。
評価内容	多様化する課題解決のためにレファレンスの充実や読書の普及として、おすすめ本の紹介、個人の調査研究に役立てるよう相互貸借による資料提供、読書週間等では特別行事をボランティア等の協力を得て実施するなど、利用者ニーズに合わせた事業を継続しており、利用者がより読書への興味を持てるよう取り組みを進めている。
事業の課題等 取組みの方向性	読み聞かせボランティアの育成と人材を確保し、読み聞かせ活動の充実と活動の拠点化が課題である。また、市民の課題解決のための図書・資料の充実と人と本をつなぐ役割を果たす職員研修による職務の向上と活用される図書館づくりが必要である。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-2-3	事業名	学校との連携による子どもの読書活動支援
-------------	----------	-------------	-------	------------	---------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94 点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	4	計画通りに目標を達成できたか。	
	3	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	学校との連携を図り、多くの子どもたちに身近な場所で本に触れる環境を整備し、本への興味と読書意欲を高められるようなきっかけをつくり、子どもの読書活動の推進と読書の習慣化を目指す。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校貸出文庫、巡回文庫、貸出文庫、ブックキャラバンなどの貸出事業の実施 ・学校訪問、図書館訪問、連絡会議、レインボー通信、おすすめ本の紹介、読書アルバムの配布、ブックフェスティバルなどの読書推進事業の開催 ・PTAボランティアへの図書装備等の支援、読み聞かせ等の実施
事業の実績及び成果	学校での貸出文庫や巡回文庫での利用が増加した。市内2校の小学校でブックフェスティバルを開催し、多彩な本との出会いの場を提供し、本への興味や読書意欲の向上を図った。各中学校では、読書感想文用図書の紹介や貸出としてブックキャラバンを実施し、本に親しむ機会を提供した。
評価内容	子どもの読書できる環境を整備し、本への興味づけや読書意欲の向上を図り、読書の習慣化へのきっかけとなる取り組みを進めることができた。また、読書アルバムも活用され、読書する子どもたちが増加傾向にあり、取り組みの成果が上がっている。子どもの活字ばなれが課題となっている中で、本事業を継続していくことは重要であり、将来的に図書館と学校図書館のネットワーク化を検討すること、巡回文庫については、地域の巡回文庫と重なっており、事業の統合と今後の方向性を整理する必要がある。
事業の課題等 取組みの方向性	子どもたちの読書環境を改善したことから、朝読書や家読書にも利用され、読書に興味を持つ子どもが増加傾向にあり、今後も継続して事業に取り組むことが必要である。貸出文庫の利用増加に伴い、絵本・児童書等の充実や学校貸出文庫、貸出文庫等の運用方法の改善、将来に向けた学校図書館とのネットワーク化についても課題である。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	2-2-4	事業名	巡回文庫
-------------	----------	-------------	-------	------------	------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	適 応 性	4	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。
4		事業を市が行う必要性があるか。	
有 効 性	4	事業の目的に照らして効果的な手法か。	
	3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	
B (84 点)	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
経 済 性 効 率 性	3	コストは縮減しているか。	
	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	図書館に来られない人のために、身近な場所で読書できるよう支援する。
事業の内容	・地域、学区の29ステーションで、1ヶ月1回、巡回車による貸出の実施 ・地域への貸出内容は、世帯登録として1ヶ月20冊、学区については、児童・生徒への個人貸出として5冊まで提供
事業の実績及び成果	図書館から遠く離れた地域の市民や学校帰りの子どもたちに身近な場所で本の提供ができた。学校での利用が増加している。
評価内容	巡回文庫は、昭和49年から地域住民へ身近な場所で読書できるよう役割を果たしてきたことは評価できる。しかし、社会情勢や生活環境等の変化から地域での利用者が減少していることも事実であり、その一方、学区での子どもの利用が増加していることから、巡回文庫のあり方について見直しの時期にきているものとする。 巡回文庫事業で重複している学校との連携事業としての巡回と地域の巡回とを区別して、利用の状況からステーションの見直しも含めて整理する必要がある。
事業の課題等 取組みの方向性	地域の利用状況や市民ニーズを含め、今後のあり方について検討が必要である。

芸術文化の振興

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-1	事業名	地域文化活動を担う人材育成事業の展開
-------------	----------	-------------	-------	------------	--------------------

判 定			
総合 ランク	評 価 項 目		
	A (91 点)	適応性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
有効性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目標 達成度	4	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
経済性 効率性	4	コストは縮減しているか。	
	4	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化の環境づくりと人材育成をめざし、地域文化を支える人材育成プログラムの推進 ・舞台芸術の活性化とネットワーク拡大のための連携 ・文化団体の担い手の育成
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「たきかわ文化村推進委員会」事業補助 ・北海道舞台塾ふらのそらち事業負担金補助 ・ふるさと文化の集い(中空知広域圏)との連携 ・文化連盟・アートNPOの次世代人材育成プログラム
事業の実績 及び成果	各事業において、ボランティアも含めて実働する人員確保ができ上がってきている。
評価内容	<p>地域の芸術文化の環境づくり、人材育成は、市民にとって不可欠なものであり、事業運営にあたっては、関係団体・ボランティア・教育委員会の連携もスムーズに行われている。</p> <p>人材育成事業としては成功していると評価するが、他の事業においても人材育成に関わっているなど、事業目的が重複していて違いがわかりづらいので、今後検討を要する。</p> <p>文化振興事業は量では無く質が求められるなど、評価が非常に難しいことや、事業をNPOへ移行することも視野に入れることが必要である。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	人材育成事業については大切な事業と考えるが、すべて行政が携わる必要はないと考えており、NPO などが事業を担って推進することが望まれる。文化村事業については、期限付き補助事業であるので、22年に向けて縮小から完了とする。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-2	事業名	個性ある豊かな地域文化の実現と環境づくり
-------------	----------	-------------	-------	------------	----------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (100 点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	4	計画通りに目標を達成できたか。	
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見える個性ある市民文化の推進 ・すぐれた芸能・舞台芸術の招聘 ・市民文化祭の支援
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌滝川公演 ・演劇公演事業 ・市民文化祭事業
事業の実績及び成果	札幌滝川公演・演劇公演・市民文化祭など各実行委員会組織により運営され会場費補助など少ない経費で大きな成果が得られた。
評価内容	事業運営は実行委員会組織で効果的に運営され、低廉な入場料で、高い水準の芸術鑑賞機会を提供できており、また、各種補助金を有効に活用し、行政コストを軽減できているが、運営資金の調達課題となっている。入場料等を低価格に抑える事業運営は参加者にとって望ましいことだが、運営される方々に負担も大きいと思われる。行政が係わる以上、行政コストとして会場費用は出来るだけ対応すべきと考える。
事業の課題等 取組みの方向性	札幌公演や演劇公演は補助メニューに依存しているため、持続可能な事業となるか課題である。市民文化祭などへの会場費補助のコスト縮減は、団体の活性化と求心力を弱めるのではないかと危惧している。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-3	事業名	住みたくなるまちづくりと子どもの芸術文化活動への環境づくり
-------------	----------	-------------	-------	------------	-------------------------------

判 定					
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目				
	A (91 点)	適 応 性	4	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	
3			事業を市が行う必要性があるか。		
有 効 性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。		
		3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。		
		4	計画通りに目標を達成できたか。		
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。		
		4	事務は効率的に行われているか。		

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・風がみつけた街たきかわ音楽祭の支援 ・市民ミュージカルなど創造的舞台芸術活動の支援 ・本物の舞台芸術体験事業、学校への芸術家派遣事業など文化活動参加と体験への環境づくり
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「風がみつけた街たきかわ音楽祭」事業補助 ・市民ミュージカル開催事業補助 ・本物の舞台芸術体験事業、学校への芸術家派遣事業
事業の実績及び成果	音楽祭の実施時期を教育プログラムに合わせて変更した。オリジナル脚本により市民ミュージカルを開催した。
評価内容	<p>音楽祭は、来春14回目を迎え、『音楽の街たきかわ』にふさわしい事業として定着してきた。市民ミュージカルの開催は、将来の芸術文化活動を担う子どもたちにとって、幅広い世代の方々との作品を創りあげ、公演の成功に繋がるプロセスは、非常に貴重な経験として、大きな影響力があった。本物の舞台芸術体験および学校への芸術家派遣事業についても、鑑賞機会の稀少なものであり、レベルの高い鑑賞ができ、効果的な事業であった。</p> <p>多くの子どもたちがベテラン演奏家とともに参加できる音楽祭は、より効果的な技術向上に繋がり、芸術文化活動への環境づくりとして高く評価できるが、音楽祭を支える実行委員会の固定化は、事業を継続するうえで大きな課題となることから、検証の必要がある。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	音楽祭に携わる人材が固定化されつつあるので、事業の継承に不安がある。また、ミュージカルの開催時期が不定期となっているため、事業への取り組みに継続性が望めない。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-4	事業名	まちなか賑わいと文化施設の活性化
-------------	----------	-------------	-------	------------	------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (97 点)	適 応 性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	4	計画通りに目標を達成できたか。	
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・文化センターの効率の良い施設運営 ・陶芸センターの充実した講座の展開と発表の場の確保 ・黒柳朝のアンティークコレクションと市民会館の有効活用 ・たきかわホール、太郎吉蔵などのまちなか賑わい拠点づくりとNPO法人との連携
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化センターの指定管理導入 ・陶芸センターのリブライオンへの移行 ・チョッちゃんアートプロジェクト事業「チョッちゃん工房」 ・たきかわホール事業との連携
事業の実績及び成果	<p>たきかわホールは 18 年度、文化センター、市民会館は 19 年度より指定管理を導入して、自主事業に取り組むなど活性化されつつある。</p>
評価内容	<p>指定管理による施設運営は、自主的かつ効果的に行われ、施設の活性化に繋がっている。また、事業の取り組みについて、PR等手法を工夫することでさらなる活性化が図れるものと考ええる。</p> <p>陶芸センターは今年度から、受講料の見直しを実施し経営改善を行っているが、民間移行の方向で検討を進める。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	<p>個別の事業を多くの市民に周知し参加者等の拡充はもとより、事業が行われていることを知って頂く手法が難しい課題となっている。</p>

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-5	事業名	歴史的文化遺産の保存と活用
-------------	----------	-------------	-------	------------	---------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (91 点)	適 応 性	3
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。
		3	計画通りに目標を達成できたか。
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物及び史跡標柱の整備、保存及び活用 ・文化財マップの作成と活用を通して歴史的文化遺産の周知を図る ・地域の歴史や自然など魅力の再発見に努める
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の開催と新たな文化財の指定への取り組み ・文化財マップを活かした文化遺産の広報 ・「フットパス」事業・岩橋ふるさと北辰桜並木事業
事業の実績及び成果	<p>華月館、屯田兵屋が 19 年度より指定管理となって清掃等の管理や来客等の対応が従前より行き届くようになった。また、年次計画により整備・保存を実施した。</p>
評価内容	<p>先人達の残した文化遺産の保存活用は行政の責任として取り組むべきものであり、文化財マップを活用するなど効果的に行われているものと評価する。</p> <p>施設の維持管理については、補修を怠ると、いずれ大規模修繕が必要となるので、行政の責任において適切に対処することが必要である。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	<p>文化財への市民の認知度をより高める工夫と働きかけや、文化財の老朽化など、補修が必要となるため今後の整備計画が課題である。</p>

博物館の充実

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-6	事業名	博物館活動の充実
-------------	----------	-------------	-------	------------	----------

判 定			
総合 ランク	評 価 項 目		
	A (91点)	適応性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
	有効性	4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
	目標 達成度	4	目標の水準は適切か。
		3	計画通りに目標を達成できたか。
	経済性 効率性	4	コストは縮減しているか。
		3	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	芸術文化と創造活動、そして地球と生命を学ぶ拠点である「美術自然史館」、こどもの科学する心を育む拠点である「こども科学館」、歴史的文化遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかがく活動センター」を活性化することで、「創造文化のまち」を実現する。
事業の内容	博物館の使命・役割を果たし、個性ある地域文化を創造するため、郷土ゆかりの3作家などの作品・資料収集及び調査研究、空知川の化石調査・資料収集などに努め、その成果として収蔵作品を活用したコレクション展「とまれ！地球温暖化展」や人物デッサン会などの普及事業を開催するほか、子どもたちの科学の興味・関心の裾野を広げる「わくわくサイエンス」事業や「移動郷土館」「村田武雄・たきかわ野の花事業」に取り組む。
事業の実績 及び成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19 年度入館者数 美術自然史館 16,129 人、こども科学館 10,308 人 郷土館 1,227 人 森のかがく活動センター 745 人 各種「ワークショップ」「化石教室」「裸婦デッサン会」等普及事業を 16 回開催。532 人参加。 科学館普及事業「わくわくサイエンス」 8 回開催。325 人参加。 移動郷土館 2 回開催。964 人入場。
評価内容	<p>それぞれの博物館で、その役割や目的を果たすための事業を実施することにより、多くの市民が地域の魅力を再発見、心の豊かさを実感するとともに、様々なものに興味・関心を喚起する機会となり、潤いと活力あるまちづくりに寄与した。</p> <p>また、効率的かつ効果的な事業の組み立てに努め、使命・役割を達成するための目標設定は適切で、市民が質の高い芸術や郷土の歴史、科学に触れる機会となり、事業の効果は上がっている。ただし、他団体や市民との連携・協働などやや不十分な点が見受けられた。</p>
事業の課題等 取組みの方向性	様々な博物館が集まる特色を活かしながら、滝川らしい活動を展開していく。外客誘致も必要だが、市民に活用される、親しまれる博物館でなくてはならない。そのためにも、市民のニーズを把握しながら、様々な普及事業の展開、収蔵資料・作品を活用した魅力ある展覧会の開催。そして、博物館や関係機関と連携することによる事業内容の充実させることが必要である。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-7	事業名	「りんごの木への想い。一木万寿三展」
------	----------	------	-------	-----	--------------------

判 定			
総合 ランク	評 価 項 目		
	A (94点)	適応性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
	有効性	4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
	目 標 達成度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
	経済性 効率性	4	コストは縮減しているか。
		3	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	滝川市出身の洋画家・一木万寿三画伯と画伯の育った江部乙のりんご園との関わりを、画伯の作品とりんごに関するワークショップを通じて広く市民に紹介し、地域の芸術文化振興に資するとともに、江部乙に点在する「りんご室」をギャラリーとし、ワークショップ作品や創作発表の場とすることで、地域の歴史的な文化資源を活用も図り、ふるさとの魅力を再発見、まちの活性化につなげる。
事業の内容	一木万寿三画伯の作品展示と画伯の育ったりんご園との関わりをパネル等で紹介。また、りんごアートワークショップやりんご室バスツアー、りんご室ギャラリーなどの関係事業を開催する。
事業の 実績 及び 成果	・展覧会 9月29日～10月21日。入場者数 1448人。 ・関連事業 「りんご写真ワークショップ」(15人) 「榛谷泰明氏講演会」(73人) 「りんごアートワークショップ」(16人) 「りんごむるバスツアー」(22人) 「りんごむるギャラリー」(85人)
評価 内容	地域固有の課題に応える美術館として、北海道の洋画家界の重鎮である一木万寿三画伯の地元の作家をテーマとした展覧会を実施したことで、将来を担う子どもたちをはじめ、多くの市民が地域の魅力を再発見するとともに、郷土に対して誇りを持つことができる機会となった。また、効率的かつ効果的な企画展の組み立てに努めたことで、市民一人ひとりが心の豊かさを実感する機会となり、潤いと活力あるまちづくりに寄与した。 地元には芸術家が多いので、博物館を中核として盛り上げて行く必要があること、教育施設でもあるので学校と連携し有効に活用してほしいとの意見もあり、今後も積極的に取り組みを進める。
事業の 課題等 取組みの 方向性	地域の博物館は、地域独自のテーマを追求し蓄積していくことが、使命の1つであることから、今後も地元の作家などをテーマとした調査・研究をし、その成果を展覧会等で市民へ周知していく。それと同時に質の高い芸術に触れる機会を提供することも、美術館・博物館の大切な役割であることから、道内・道外の美術館との連携を図るなど、工夫をしながら、魅力ある展覧会を開催し、入館者を増やしていくことを目指す。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-8	事業名	博物館アウトリーチ事業「ちいさな・はくぶつかん」
-------------	----------	-------------	-------	------------	--------------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (94点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	4	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	4	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	博物館に収蔵する資料、調査研究の成果をわかりやすく市民に伝えるとともに、博物館の活動や役割を広く市民に紹介する。
事業の内容	博物館がこれまで取り組んできた活動、事業等により蓄積した成果を「博物館体験メニュー」として取りまとめ、学校や児童館などのグループに周知し、授業や学習活動での活用を図る。りんごの開花から収穫までを題材にした「りんごの1年」など4事業を学校・児童館で実施する。
及び成果 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「滝川名産りんごの1年」 111 人参加(2回開催)。 ・「作ってさわろう！バルーンスライム」 27 人参加。 ・「空気の力」 80 人参加。
評価内容	<p>博物館は、収蔵・保管する資料や調査研究の成果を広く市民に伝えることが大切な使命であり、特に子どもたちによりわかりやすく伝えることが求められており、市民ニーズや施設の役割・使命に沿った事業である。</p> <p>必要な教材費等は参加団体に負担してもらうなど、コスト縮減に努め事業を実施することはできたが、児童館の利用が多い反面、学校の授業での利用が伸びていないなど、目標達成度がやや低かった。</p> <p>PRが不十分な点が見受けられたことと、利用の少ない分野もあり、学校との連携を密にする中で、テーマや内容の見直しを図ることも必要である。</p>
取組みの方向性 事業の課題等	<p>たくさん子どもたちに博物館を活用してもらうことは大切であり、出前での講座は博物館に関心を持ってもらうための有効な手段のひとつである。メニュー・内容等の充実を図りながら、今後も継続して実施する。</p> <p>学校での活用が少ないことから、博物館で学習できることを明確にするなど、PRを積極的に行なう必要がある。また、学校の授業で活用できる内容を検討するなど、学校との連携を密にし、より一層の利用促進を図る必要がある。</p> <p>市民に利用される博物館となるため、これまでの学習の場としての蓄積を活かすほか、市民と協働を推進する中で、より充実した学習環境を整えることが課題である。</p>

事業年度	平成 19 年度	事業番号	3-1-9	事業名	郷土館開館 30 周年記念「たきかわ・昭和のこどもたち展」
-------------	----------	-------------	-------	------------	-------------------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (88 点)	適 応 性	4
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	3	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	4	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	3	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	郷土館開館 30 周年を記念し、昭和 30～40 年代をテーマに展示を行うことにより、写真を中心とした資料の充実を図る。また、当時を懐かしく振り返る展示を通じて、再び多くの市民に郷土館に目を向けていただく機会とする。
事業の内容	郷土館開館 30 周年を記念し、その歴史を振り返るとともに、2階展示室のリニューアルに取り組む。 展示は、滝川が最も活気づいていた昭和 30～40 年代の滝川のこどもたちがテーマで、写真を中心に当時の子どもの文化や風俗、街並みを紹介する内容。併せて学校・茶の間など各コーナーにテーマを設定し、既存展示をリニューアルする。
及び成果 事業の実績	入場者数 605 人
評価内容	郷土館は、まちの歴史を刻む記録装置の役割を担うことから、まちの歴史を語る資料の収集、それらの研究は重要な取り組みであり、その成果を広く市民に公開していくことは、まちの歴史を語り継ぐこと、そして郷土館に関心を持ってもらう意味でも必要な事業である。 より一層利用される郷土館を目指し事業を実施したことで、期間中 600 人を超える市民が郷土館を訪れ、郷土の歴史に触れる機会になるとともに、郷土の歴史を語り継ぐための資料の充実が図られる機会となった。なお、事業の効果は上がったが、郷土研究会等との連携にやや不十分な点が見受けられた。
取組みの方向性 事業の課題等	郷土の歴史を後世に伝えるためにも、資料の収集・保存・活用に努めるとともに、より多くの市民が郷土館に来館する機会を作る必要があり、今後も引き続きふるさとの歴史を様々な角度でみつめ、その成果を展覧会や書物、移動郷土館などを通じて広く知らせる取り組みを推進する。また、過去だけではなく、現在の出来事などを綴っていく必要もあることから、新たな資料の収集や記録を残すなど、その活動を通じて郷土館の役割を市民により深く理解してもらうことが課題である。 運営予算が非常に少ない中、郷土研究会等との連携を深め、定期的なリニューアルに努めるなどの必要性がある。

スポーツの振興

事業年度	平成 19 年度	事業番号	4-1-1	事業名	生涯スポーツ・体力づくりの推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	-----------------

判 定			
総合 ランク	評 価 項 目		
	A (97点)	適応性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有効性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
A (97点)	目 標 達成度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
	経済性 効率性	4	コストは縮減しているか。
3		事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	総合型地域スポーツクラブの育成を通して「市民一人一スポーツ」を提唱し、生涯にわたる健康・体力づくりを支援するほか、「市民ウォーキング」「たきかわコスモスマラソン」「水中運動」などの市民参加型の事業推進により、市民が気軽に運動やスポーツに参加できる機会を提供する。また、温水プールなどを活用した水中プログラムや子どもの運動能力の向上を図る教室などを開催する。
事業の内容	市および(財)滝川市体育協会、滝川市体育指導委員会のほか、平成 19 年 2 月 25 日に設立した総合型地域スポーツクラブ「滝川スポーツクラブ」などと連携し、料金設定したさまざまなスポーツ教室(エアロビクス・ヨガ・幼児運動・水泳・ジョギング・スケート・スキー等)とスポーツイベント(スノーレク・10 人 11 脚大会・スポーツ塾・体力チェック等)を年間通して開催し、健康増進を図る機会を提供する。パンフレットの作成や広報誌などによる PR 募集を行う。
事業の実績 及び成果	スポーツクラブの会員制を導入し、年会費として中学生以下 500 円、高校生以上 1500 円を徴収しスポーツ教室を実施するとともに、スポーツイベントを開催するなど、年間を通して健康増進を図る機会を提供した。
評価内容	総合型地域スポーツクラブや温水プールのさまざまな教室開催により、延べ 11,187 人の幼児からお年寄りまでの方に運動する機会を提供し、市民の健康増進を図ることができた。また、PR パンフレットも見やすく出来ており、各教室の参加者増に効果的であったと考える。将来的にこの事業をどう運営すべきか、民間への移行も含めた検討が必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	各スポーツ教室およびスポーツイベントの開催は、介護予防およびメタボリックシンドロームなど健康ブームによる社会的・市民的ニーズが高いため、今後も市民が気軽に参加できる場を提供する必要がある。そのためには、指導者の確保が必要であることから、より一層滝川スポーツクラブや(財)滝川市体育協会、関係部署と連携を図ります。

事業年度	平成 19 年度	事業番号	4-1-2	事業名	競技スポーツ・観るスポーツの推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	------------------

判 定					
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目				
	A (97点)	適 応 性	4	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	
3			事業を市が行う必要性があるか。		
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。		
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。		
		4	計画通りに目標を達成できたか。		
	経 済 性 効 率 性	4	コストは縮減しているか。		
		4	事務は効率的に行われているか。		

事業の目的	(財)滝川市体育協会の加盟団体と連携し、スポーツ著名人による実技研修会開催や各種大会誘致により、一流選手のプレーを直接観ることで、競技力向上や競技スポーツへの興味・関心を高める機会を提供し、底辺の拡大を図る。
事業の内容	(財)滝川市体育協会と連携し、北海道室内棒高跳大会および日本ハム野球教室など毎年継続開催することで、市民(特に子どもたち)に一流選手のプレーを観戦してもらい関心を高めもらうほか、直接実技指導を受けてもらい技術の向上を図る。
事業の実績及び成果	北海道室内棒高跳大会および日本ハム野球教室など開催するとともに、吉川なよ子プロジュニアゴルフクラブを設立(民間独立)した。
評価内容	全日本早起き野球大会をはじめ14の全国・全道大会を誘致・開催したほか、日ハム野球教室開催により、子どもにプロ野球選手の実技指導を受ける機会を提供でき、子どもたちに将来の夢を与えることができた。 全道大会を誘致・開催していることは評価できるが、大会に地元のチームが出ていない、例年開催している北海道中学校軟式野球大会にも地元のチームが出ていないという意見もあることから、競技力の向上が図れるよう関係機関との連携が必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	今後、競技スポーツの技術向上のための指導者養成やスポーツ環境・施設整備などの充実に努める。(グラウンド整備用の土、スポーツ医学やトレーニング指導者育成など)

事業年度	平成 19 年度	事業番号	4-1-3	事業名	海洋スポーツ・冬季スポーツの推進
-------------	----------	-------------	-------	------------	------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	B (84点)	適 応 性	3
3			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		3	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		3	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。
		4	計画通りに目標を達成できたか。
	経 済 性 効 率 性	3	コストは縮減しているか。
		4	事務は効率的に行われているか。

事業の目的	北海道の特色や地域資源と人材を生かした運動・スポーツの充実を図り、青少年の健全育成と子どもから大人までの市民健康増進を図る。
事業の内容	地域の自然環境を生かしたスポーツ・レクリエーションの場として、夏は海洋センターでカヌー・ヨット体験、冬は北電スロープやスケートリンクで冬期間の体力づくりを図る機会を提供します。
事業の実績及び成果	海洋センター利用者数は、全国2位で特A評価を受賞し、平成15年度からの5年連続受賞となった。また、平成19年度は、年間の活動状況と障害を持つ人でもカヌーを楽しめることが新聞やテレビで取り上げられるなど、その成果が評価されて「2007B&G 広報大賞」を受賞した。
評価内容	海洋センター利用者数が過去最高の18,160人となり、5年連続特A評価と「2007B&G 広報大賞」を受賞できた。しかし、市外の学校利用数は伸びたが市民の利用増には至らなかったことから、市民利用の増加につながるよう積極的なPRが必要である。
事業の課題等 取組みの方向性	利用料金の受益者相応額を検討するほか、開設期間の検討、海洋センターの指導者を市派遣職員から指定管理者育成の職員に変更するよう検討を進める。(平成20年度は指定管理者で配置する予定)

事業年度	平成 19 年度	事業番号	4-1-4	事業名	関係団体との提携と各種施設の有効活用
-------------	----------	-------------	-------	------------	--------------------

判 定			
総 合 ラ ン ク	評 価 項 目		
	A (97点)	適 応 性	4
4			事業を市が行う必要性があるか。
有 効 性		4	事業の目的に照らして効果的な手法か。
		4	施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。
目 標 達 成 度	4	目標の水準は適切か。	
	3	計画通りに目標を達成できたか。	
	4	コストは縮減しているか。	
経 済 性 効 率 性	4	事務は効率的に行われているか。	

事業の目的	各種スポーツイベントの推進、健康・体力づくりの充実化、各種施設の管理と有効活用を図り、「市民一人一スポーツ」推進のために、(財)滝川市体育協会並びにその加盟団体と連携し、スポーツ施設の効率的な運営管理とサービス向上を図ることを目的とする。
事業の内容	平成 16 年度から導入している指定管理制度の最終年度であることから、老朽化が進んでいるスポーツ施設の修繕などを検討し、今後も指定管理者制度を継続することで募集準備を進める。また、平成 19 年度は文部科学省の調査事業を受託し、(財)滝川市体育協会や滝川スポーツクラブ、滝川市体育指導委員会の連携により、幼児を対象にした体力向上に取り組む。
事業の実績及び成果	文部科学省調査事業受託により、おおぞら幼稚園、江部乙保育所、二の坂保育所、中央保育所の幼児 151 人を対象に体力向上に取り組みました。(3年間事業) サイクリングターミナルでは大学や高校のスポーツ合宿を誘致した。
評価内容	文部科学省調査事業は全国 11 地域、道内では滝川市だけが受託し、(財)滝川市体育協会と連携して取り組み、幼児期からの基礎体力づくりを推進した。 また、サイクリングターミナルは、大学や高校のスポーツ合宿の誘致を行い、施設利用促進を図った結果、合宿受入延べ人数は前年度比 265.3%となった。今後も利用しやすい環境づくり努めるとともに、施設の充実を図り、宿泊者の増につなげたい。
事業の課題等 取組みの方向性	次の4点を検討して見直しを図ります。 老朽化したスポーツ施設の計画修繕または廃止・統合・新築などの検討が必要である。(温水プール・市民プールなど) 各スポーツ施設の利用料金見直しの検討が必要である。(受益者負担の検討) (財)滝川市体育協会加盟団体の育成支援・強化が必要である。 特に利用の少ない曜日や時間帯の利用増を図る必要がある。

子育て10選(実践)

～もう一度家庭を見直そう・大人が変われば子どもも変わる～



子育ての悩み 相談すれば道は開ける
 祖父母 友だち 近所の人のかも借りよう

「あいさつで心がふれあう滝川市」
 あいさつ運動スローガン